

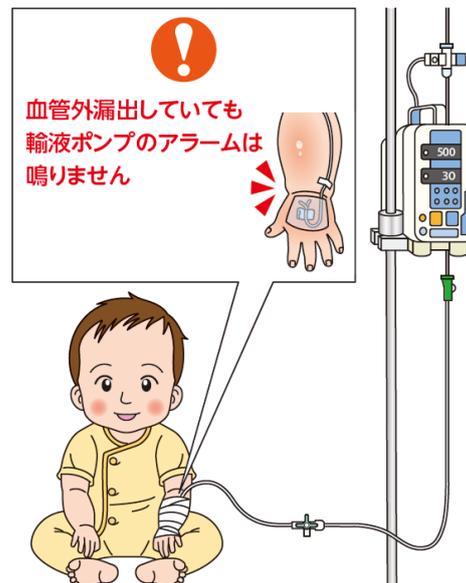
輸液ポンプ使用時と、フローサイン導入以降のEV発生率を調査し、フローサインの圧倒的な優位性を発表して頂きました。

(発表資料を表にまとめたものです)

			輸液ポンプ使用時		フローサイン使用時
	条件	調査期間			
化学療法件数	通常使用	2022年3月~6月	218件	—	—
	移動時は使用中断	2023年4月~7月	—	554件	—
	フローサインの採用	2023年10月~2024年1月	—	—	748件
EV件数			8件	2件	0件
発生率			3.66%	0.36%	0.00%

【結果】

- ・輸液ポンプで発生していたEVはフローサインの使用により現在まで0件であった。
- ・フローサイン使用により点滴中断やEVによる痛みなど患者様の身体的、精神的負担が軽減された。
- ・EVに対するアラームは警報感度が鋭く、導入以前と比較してアラーム対応が増加した。
- ・落差が原理のため注入速度の限界もあり、輸液ポンプを使用する症例があった。



血管外漏出 (EV) リスク評価

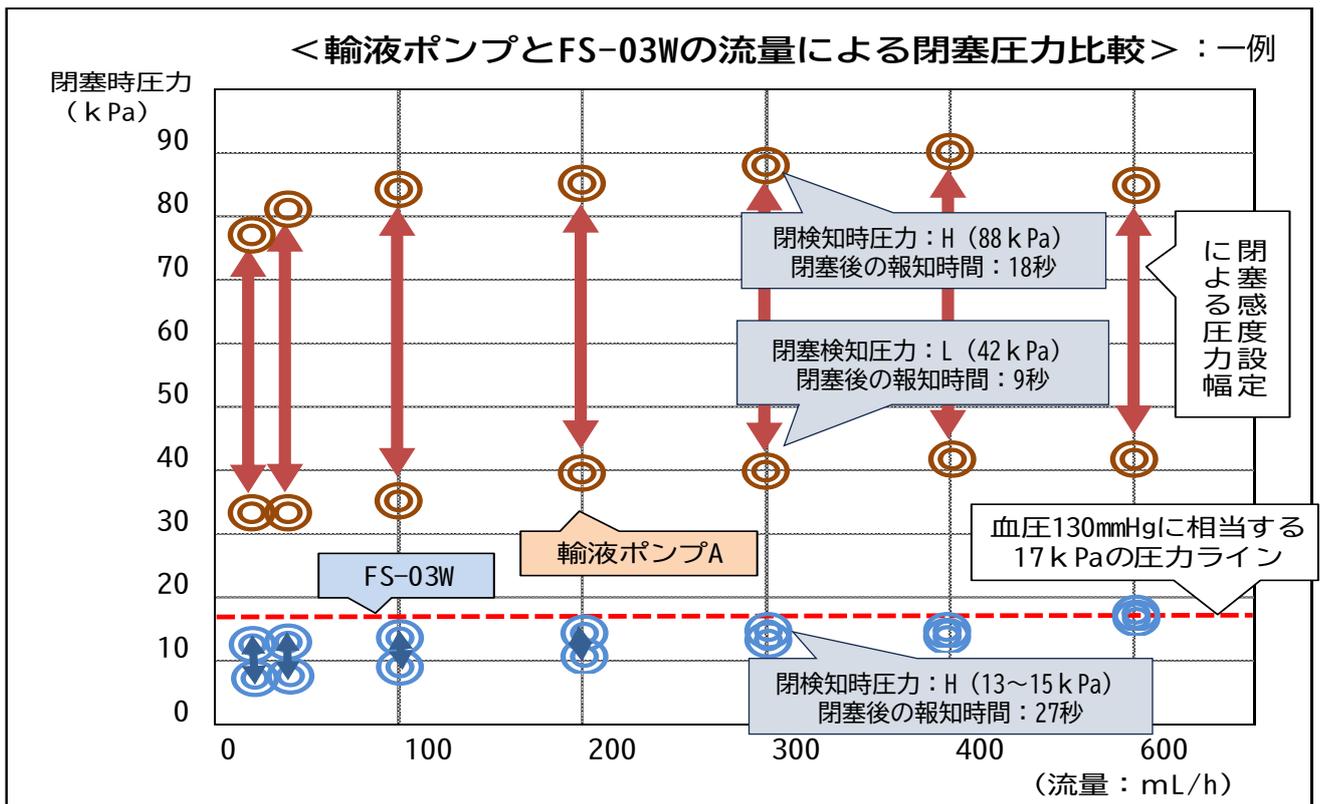
<考察>

■血管外漏出の可能性がある場合、穿刺針には流量減少を引き起こす閉塞圧が生じます。

■輸液の継続中に流量減少が生じる原因は、①液面の高さ変化、②ラインの閉塞、③穿刺針の閉塞が想定されます。

■流量300mL/hに設定していた場合、フローサインは閉塞圧による流量減少を検知すると、約30秒で報知機能が作動します。
(警報と報知ランプの色変化、表示)

■フローサインは一般的な輸液ポンプの1/3~1/4の閉塞圧検知により上記の輸液警報を発し、輸液を停止します。



<手落とし輸液でEVが発生した時は>

- ①流量減少が起こり流量の停止か、流量が減少して少しずつ輸液は継続されます。(EV事故は軽くなります)
- ②流量減少を報知する機能が無いので、目視確認による流量減少の発見に時間がかかります。
- ③輸液の時間管理が難しくなくなります。

